

海外安全対策情報 平成29年度第4四半期

1 社会・治安情勢

- (1) 2月4日、ギニア全土で地方選挙が行われましたが、翌日から各地で与野党支持者の対立が発生し、死傷者が出ました。また、3月には選挙結果に不満を持った野党支持者がコナクリ市を中心に大規模な抗議デモを行い、警官隊の威嚇射撃等により多くの死傷者が出ました。3月以降も野党は抗議デモを予定しているため、注意が必要です。
- (2) 2月、教職員組合のストライキにより、学生が授業を継続的に受講できないとして、投石や道路に障害物を置いて道路封鎖を行い、抗議活動を行いました。デモ隊は治安当局と衝突し、多数の負傷者が出ました。
現在は教職員組合と政府の話し合いが行われ、落ち着きを取り戻しましたが、今後の政府の対応によっては抗議活動が過激になる可能性があります、注意が必要です。
- (3) 1月2日から3月17日の間、麻しんの感染疑いが、496例発生し、検査などで81例が確定例として確認されています。死亡例は4例です。
ギニア保健省は2017年2月8日、同国での麻しんの流行宣言を発出しています。

(4) 森林地方のヨモウ県にて1月21日から3月17日までの間に、157名

の水痘（水ぼうそう）の罹患者が発生しました。保健省は、この件の経過について調査を継続しています。水痘は、接触感染、飛沫感染、空気感染によって感染する病気です。渡航の際は、水痘の既往歴、ワクチン接種の有無をご確認下さい。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

1月～3月の間、日本人が被害に遭った事件は確認されておられません。一般犯罪発生状況は、従前と比較し改善していると言われてはいますが、政府車両を標的にした強盗や、裕福な家庭を狙った強盗事案がたびたび発生しています。

また、国境、県境周辺や幹線道路沿いでは、長距離タクシーや乗用車を狙った武装強盗による被害も治安当局により確認されています。

今後も、ご家族も含めて犯罪に巻き込まれないよう、行動には一層の注意を払うなど、自ら安全を守る心構えが必要です。防犯の心構えとして当館ホームページに掲載の【安全の手引き】をご覧ください、未然の防止に努めてください。

(1) 一般犯罪・凶悪犯罪事案

○コナクリ市

(ア) 2月、休校中の学校の学生が、教員によるストライキの影響により、授業

を継続的に受講できないことを不服として、投石や道路に障害物を置いて道路封鎖を行い、抗議活動を行いました。この間、デモを鎮圧しようとした治安当局とデモ隊が衝突し、憲兵隊1名が死亡したほか、多数の負傷者が出ました。

(イ) 2月4日、ギニア全土で行われた地方選挙に不満を持った野党支持者が与党支持者や治安当局と衝突し、警官隊の威嚇射撃で多くの死傷者が出ました。

また、3月以降、教職員組合のストライキに起因するデモの参加者と地方選挙の結果に不満を持った支持者が合流し、コナクリ市内では大規模なデモが発生。デモ隊と治安当局が衝突し、多数の死傷者が出る事態となりました。

○シギリ県

3月、乗客を乗せたタクシーがマリ共和国のバマコ市からシギリ県へ向かう途中、武装強盗に襲撃され、金品を強奪されました。

○マンディアナ県

1月、地元住民の宗教を批判し、改宗を勧めたサウジアラビア人が、激怒した住民によって殺害されました。

(2) 邦人被害事案

邦人被害事案は確認されていません。

(3) 在留外国人（邦人以外）の被害事案

在留外国人の被害事案はマンディアナ県で1件殺人事件（サウジアラビア人）が確認されています。（前述2（1））

3 テロ・爆弾事件発生状況

ギニア国内ではテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局は昨今の西アフリカ諸国におけるテロ発生を受けて、主要なホテルや公共施設に治安部隊を配置し警戒に当たっています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

(1) 1月、ラベ県で女性が宗教トラブルに巻き込まれ、シギリ県在住の宗教関係者によって誘拐される事件が発生し、現在も行方不明のままとなっています。

(2) 1月、年配夫婦が軍服姿の5人組によって誘拐される事件が発生しました。

(3) 2月、マムー市で少女が人身売買目的によって誘拐されました。その後、少女はリベリアで発見され、解放されました。

(4) 在留邦人、在留外国人の被害事案は確認されていません。

5 対日感情

ギニア国民の対日感情は概ね良好です。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

ギニア国民の対日感情は概ね良好であることから、日本企業であることを理由に犯罪の標的になる可能性は低いと思われます。

以上